

2020 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 地域社会学 記載者氏名 _____

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

以下の 6 つの用語のうちから 4 つを選択し、その意味を説明してください。

出題意図：

課題テキストである、地域社会学会編『新版キーワード地域社会学』（ハーベスト社、2011 年）から該当する部分を抜き出し、適切に記述することができるか。

問題 2

グローバリゼーションが引き起こす地域社会問題とその解決に向けた「コミュニティ意識」醸成のための取り組みについて、具体的をあげつつ論じてください。

出題意図：

- ① グローバリゼーションの進行によって変容する地域社会の現状を認識できているか。
- ② グローバリゼーションとローカリティの関係について理解しているか。
- ③ 「コミュニティ意識」概念を定義できるか。
- ④ 地域社会問題の解決に向けた多様な主体の取り組みについて具体的な事例を知っているか。

2020 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人

科目名 環境政策論 記載者氏名 _____

解答例又は出題意図

【基礎】

問題 1

大学院での環境政策論の学習のために必要となる基礎知識の理解度を確認するために、基本的な用語の意味を問う問題を出題した。それぞれの用語について、以下の基本的事項が正しく論述されていることを基本とし、さらに背景や具体例などの発展的事項が論述されている場合は高く評価した。また、大学院での学習において必要となる論述能力を評価する観点から、論述の正確さやわかりやすさについても評価対象とした。

1. 外部不経済については、市場を経由せずに経済主体に与える負の影響を意味し、環境問題が生じる社会的メカニズムの1つとして広く理解されていること
2. アジェンダ設定については、数多く社会課題の中から政策過程においてアクターが注目するある特定の課題が定まり、その後の政策過程を大きく左右すること
3. 日本の1997年河川法改正については、法律の目的に河川環境の整備と保全が追加され、河川整備計画の策定段階で関係住民意見を反映させる手続きが設けられたこと
4. ライフサイクル・アセスメントについては、生産段階のみならず、素材生産から使用・廃棄段階までを含めた製品やサービスの環境影響を評価する手法であること
5. 強い持続可能性と弱い持続可能性については、前者が自然資本と人工資本の代替不可能性を重視する考え方、後者が自然資本と人工資本の代替可能性を前提とし、総資本での持続可能性を検討するアプローチであること

【専門】

問題 2

大学院での環境政策論の学習のために必要となる専門知識の理解度を確認するために、専門的な知識や論述能力を問う問題を出題した。(1)については、公共政策学の全体像を把握する上で重要な「inの知識」と「ofの知識」の区別について正しく理解しているかを問う設問となっている。(2)については、個別具体的な公共政策について十分な知識を有しているのか、また公共政策学の

概念（「inの知識」と「ofの知識」）を具体的な事例に適用して論じることができるのかを問う問題となっている。また、大学院での学習において必要となる論述能力を評価する観点から、論述の正確さやわかりやすさについても評価対象とした。

2020 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 外国人

科目名 地域コミュニティ論 記載者氏名 _____

解答例又は出題意図

【基礎】

問題1 以下の4つの用語の中から2つ選択して、その意味を解説してください。

(1) 社会関係資本

社会関係資本とは、協調行動が活発化することによって社会の効率性が高められる場合の社会組織の特徴であり、「信頼」「互酬性の規範」「ネットワーク」などから成ると考えられている。社会関係資本には、同質的で結束が強い統合（ボンディング）型と、異質な組織間を結びつける橋渡し（ブリッジング）型があり、中山間地域等の地縁に基づいた密接な近隣関係にはボンディング型の社会関係資本の実態が見られる。

(2) エコミュージアム

エコミュージアムとは、1960年代後半に国際博物館会議（ICOM）の初代ディレクターであったG.H.リヴィエールが提唱した概念で、特定のエリアの住民の生活の中に学術的価値を見出し、地域住民自身が学芸員となって、地域資源となる生活文化を発見し、収集・記録していく活動である。「生活まるごと博物館」と位置づけられ、地域の食文化、方言、習俗、技術などの住民の生活に関する事象を広範に「展示物」の対象としてとらえる。

(3) 地域運営組織

地域運営組織とは、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織である（総務省）。おおむね小学校区を対象として形成され、行政などとの連携の下、地域住民が主体的に、地域課題の解決に向けた取り組みを行うことが期待されている。

(4) 地元学

地元学とは、元水俣市役所職員の吉本哲郎が提唱した概念であり、住民が、自分たちが暮らす地域をくまなく見て回り、日常の生活の中で忘れられた地域資源を見出し、地域の価値を再認識する学習活動である。見出された地域を構成する様々な要素に対して、その意味や意義を住民の手で自ら解明していくことで、主体的な地域づくりの足がかりとなることが多い。

【専門】

問題2 「伝統的博物館」と「地域博物館」の違いを説明した上で、地域に開かれた博物館・美術館の可能性について、具体例を示しながら解説してください。

伝統的博物館：施設内において展示・普及・教育・収集・整理・保存・調査・研究を行う

地域博物館：施設内において展示・収集・保存・調査・研究を行うとともに、地域に開かれた博物館として、施設内外で市民の参加・体験・普及・教育の支援等を行う

「地域博物館」の可能性：

生活の場である地域の見直しや日常生活における新しい課題の発見への期待

具体例：

平塚市博物館は「相模川流域の自然と文化」をテーマとする地域博物館であり、人文系（考古・歴史・民俗）と自然系（生物・地質・天文）の各分野には、市民と学芸員が共同で調査研究を行うワーキンググループがある。例えば、「相模川を歩く会」は相模川の河口から山梨県の源流まで5年かけて調査し、その成果は「相模川事典」としてまとめられている。

金沢 21 世紀美術館は、参画交流型の美術館として、市民によるワークショップなどを多数展開する。「誰にとっても来館しやすく、楽しみを見つけることのできる美術館を目指す「みんなの美術館 みんなと美術館」など、地域の人たちと交流する場を共有する多彩な事業を計画し、多様な来館者や価値観を包摂する「まちの広場」としての役割を任せていきます」（同美術館ウェブサイトより）

2020 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 スポーツ教育学 記載者氏名 _____

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1 以下にあげる（1）～（3）の問いの中から2つ選び、解答しなさい。解答順は問わないが、選択した問題の番号を文頭に明記すること。

- （1）体育における学習指導について述べなさい。
- （2）体育における教材について述べなさい
- （3）体育における集団づくりについて述べなさい。

出題意図：スポーツ教育にかんする基本事項の理解度をみることと、問われたことに対する確に記述する表現力を問うた。

【専門】

問題2 子どものスポーツ環境に関する現状と課題について述べなさい。その際、学校外の環境についても触れて論述すること。

出題意図：スポーツ教育にかかわる諸課題を多角的に捉える思考力と、考えたことを論理的に記述する表現力を問うた。

2020年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 身体運動心理学 記載者氏名 _____

解答例又は出題意図

問題 1

1) フィードバック制御

人間が運動を行う際、目標とした運動を行うために、まずは身体内外からの情報が取り入れられ（入力）、それらの情報を手がかりに運動が決定し実行される（出力）。次に、自らが実行した運動に関する情報と、目標とした運動の誤差が検出される（誤差検出）。そして、その後の運動では誤差が小さくなるように運動が修正される（誤差修正）。このように、運動が行われる際の情報処理プロセスにおいて、出力された情報を手がかりに誤差を検出し、次の運動における誤差を修正する働きのことをフィードバック制御と呼ぶ。

2) フィードフォワード制御

あらかじめ決められた運動プログラムによって運動が自動的に制御されるシステムをフィードフォワード制御と呼ぶ。例えば、高速で移動するボールをラケットで打つ場合、フィードバック制御によってボールが適切な位置にきたことを視覚情報として取り入れてから運動を開始してはタイミングが遅れてしまう。なぜなら、刺激が提示されてから運動が開始されるまでには最低でも100ミリ秒以上を要するが（反応時間）、運動が開始されても、ラケットが適切な打点まで移動するまでにさらに時間がかかるためである（運動時間）。この時間的な遅れを解消するためには、ボールが適切な位置に来る前に、ボールが飛んでくる位置やタイミングを予測し、行うべき運動プログラムをあらかじめ計画・決定し、先回りして運動を開始しておく必要がある。フィードフォワード制御は事前に計画される運動プログラムによって行われる制御システムであるため、プログラム制御とも呼ばれる。

* 出題意図

運動学習は知覚と運動の協応関係の高次化である。運動に必要な情報がどのように知覚され運動がコントロールされるのか、その過程を説明する2つの制御システムについて理解しておくことで、運動が学習されるメカニズムを説明することができる。また、その原理を応用することで、知覚と運動の高次化を促進する効果的な学習・指導法の開発につなげることができる。

問題 2

メンタルプラクティスはイメージを用いて運動技能を向上させる運動学習法であり、適切に行うことで身体的練習と同等の学習効果が期待できる。身体を動かしてもよいが、身体を動かさずに行うことも可能であるため、場所を選ばずに実施可能であるほか、怪我をしている際や身体的疲労が蓄積している場合にも実施可能である。

1) イメージトレーニングとの違い

メンタルプラクティスがイメージを用いた運動技能を向上させる運動学習法であるのに対して、イメージトレーニングは、プレー中の覚醒水準をコントロールする能力を向上させるメンタルトレーニングの一種である。

2) 効果的なメンタルプラクティスを行う際のポイント

①筋運動感覚的なイメージを想起する

イメージには、自分を客観的に観察するかのような視覚を中核とする視覚的イメージと、実際に運動をしている時の運動感覚や体性感覚を中核とする筋運動感覚的なイメージがある。メンタルプラクティスはイメージを利用した運動技能の学習法であり、意図・感覚と運動の結果の関係性、すなわち運動スキーマを形成するための方法の一つとも言える。したがって、視覚的イメージでは運動スキーマ形成が促進しにくいいため、筋運動感覚的なイメージを想起すると学習効果が促進する。

②身体的練習と組み合わせる

目標とした運動が出来た直後、個人差はあるものの、その運動感覚や体性感覚は約 20～30 秒程度しか残存しない。そのため、身体的練習と組み合わせ、目標とした運動の感覚やイメージが鮮明なうちにメンタルプラクティスを行うことで、運動学習の効果が促進する。

③リラックスした状態でイメージ想起に集中する

明瞭な運動イメージを想起するには、イメージに注意・集中する必要がある。したがって、覚醒水準が過度に高く、イメージとは無関係な対象に注意が向いてしまう場合は、リラクゼーションを行ってからイメージを想起する。

④1回のイメージ想起時間は5分以内にする

イメージへの注意・集中には心的努力が必要とされるため、長時間にわたって明瞭なイメージを想起することは困難であり、短時間で行うことが推奨される。

*出題意図

昨今、運動部活動の活動時間の問題や青少年期のオーバートレーニングによる故障の問題など、運動・スポーツに関する様々な問題が課題として挙げられている。筋力がパフォーマンスを規定する種目・課題であれば身体動作を伴う運動系のトレーニングが必須となる。一方、状況判断や予測、

意思決定が重要な種目・課題では、運動系のトレーニングのみならず、身体動作を伴わなくとも知覚-運動系の協応関係を高次化する知覚系のトレーニングが重要となる。後者の場合、メンタルプラクティスによって身体への過度の負荷を軽減しつつ、イメージを用いて運動技能を向上させることができるため、安全で、効率的かつ効果的な運動指導のあり方を考えるうえで参考にすることができる。